

令和5年度 在籍園への移行支援の取り組み

～療育での具体的な支援を在籍園に繋ぐ～

児童発達支援センターの長期的な課題

平成26年に児童発達支援センターが発足して以来、常に集団療育利用希望待機児が常態化



受け入れ枠の確保と在籍園との連携を強化する取り組みを始める

支援を「生活の場」に移行する=移行支援

『児童発達支援ガイドライン』から（H29.6）

児童発達支援の内容

（1）発達支援

ア 本人支援

イ **移行支援**：地域社会で生活する平等の権利の受容と、地域社会への参加・包容（インクルージョン）の考え方に立ち、障害の有無に関わらず、全ての子どもが共に成長できるよう、**障害のある子どもに対する「移行支援」を行うことで、可能な限り、地域の保育、教育等の支援を受けられるようにしていくとともに、同年代の子どもとの仲間作りを図っていくことが必要である。**

また、児童発達支援においては、障害のある子どもの発達の状況や家族の意向をアセスメントし、地域において保育・教育等を受けられるように**保育所等への支援を行う「後方支援」の役割が求められている。**

『障害児通所支援に関する検討会報告書』から（R5.3.28）

- ・～略～**インクルージョン（地域社会への参加・包摂）**をこれまで以上により一層推進すべきである。
- ・保育所等への障害児への支援力の向上を図り、併行通園や**保育所等への移行を推進していくことが重要**である。

移行支援の取り組みの経過

令和3年度
(1年目)

☆療育職員の意識を変える

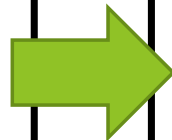
- ・療育の利用サイクルを回す



『利用終了』から
『移行支援』という
考え方へ



支援を日常へ



令和4年度
(2年目)

☆園訪問の充実

- ・移行支援を見据えた児に対して、積極的に園訪問を行う



多くの移行支援ができた(40人)
(前年度:16人)



移行支援出来た
人数は増えた

でも・・・

本当に保護者や
在籍園の先生達が
安心できている？

計画

令和5年度の取り組み（3年目）

☆ 『安心』・『丁寧』な移行支援をする

移行支援を見据えた児に対して、園訪問を実施する

何を
引き継ぐ？

いつから
引き継ぐ？

どのように
引き継ぐ？

上記の視点で、支援内容等の共有や支援方法の伝達を
確実に行う。

園訪問時に見つけること（～園訪問の記録用紙～）

療育でしていることや支援の『何』を園に引き継いでいく？
⇒ **書き込む**

『いつから』引き継ぐ？ ⇒ **書き込む**

『どのように』引き継ぐ？ ⇒ **書き込む**

園での取り出し・療育に来てもらう・園のクラス的生活（遊び）の中で

【支援移行開始時期】

6 か月前

3 か月前

【通所回数】

月 4 回通所

月 3 回通所 + (月 1 回園訪問)

月 2 回通所 + (月 2 回園訪問)

【園訪問回数】

(6 か月前)

2 回 × 6 か月 = 12 回

1 回 × 6 か月 = 6 回

(3 か月前)

2 回 × 3 か月 = 6 回

1 回 × 3 か月 = 3 回

【内容】

何を

支援ツール (

支援ツールの使い方 (

大人の関わり方 (

形態は

園で取り出し

クラスの活動

いつ (時間)

(

場所は

(

誰と一緒に

(加配の先生 ・ 担任の先生 ・ その他の先生)

実践

～Aくんの事例から～

個別支援計画

- ・視覚的手掛かりがある中で、気持ちの切り替えや行動調整ができるようになる。
- ・主体的に体を動かす中で、体幹が育ち安定した姿勢がとれるようになる。

園訪問で見つけたこと

- ・何を引き継ぐ⇒運動あそび
- ・いつから引き継ぐ⇒支援移行3ヶ月前から
- ・どのように引き継ぐ⇒園での取り出し（遊戯室を使う）

在籍園の思い

「毎日の生活の中で、園でもできる運動あそびを教えて欲しい。」



移行支援では
「園でできる
運動あそびを引
き継ぐ」ことを
重点に取り組む

経過 5月：在籍園、保護者と話し合い
(支援を在籍園に引き継ぐこと、園訪問の頻度等)
⇒7月～9月、月3回通所+月1回園訪問

6月：事前の園訪問（園にある遊具、場所、訪問する時間などの確認）

7月：園での実践1回目（①巧技台ジャンプ ②鍵さがし ③間違い探し）

8月：園での実践2回目（①巧技台ジャンプ ②コーナー遊び ③迷路）

9月：園での実践3回目（①台車 ②自分で作るサーキット ③間違い探し）

巧技台ジャンプ

マット、バランスストーンでサーキット、ヌードル+ボールでバッティング



鍵さがし

高いところにある鍵を自分で巧技台を組んで取る
⇒宝探し⇒宝の地図に金貨を張る



こども

- ・必要な支援が日常的に得られ、大きな集団の中で安心して過ごせた。自分の力を発揮できた。

保護者

- ・園の遊具や環境でも、療育のような支援が受けられると感じ、安心できた。
- ・園の先生との距離感がより縮まった。

移行支援の評価

在籍園

- ・日常生活（園の生活）の中でも、「支援ができる！」という自信が持てた。
- ・提示するタイミングや関わり方のコツを保育の中で学べた。

療育職員

- ・療育にあるような専門的な遊具がなくても、在籍園の遊具や環境で、療育と同じような支援の提案ができた。

気づき・今後の方向性

安心・丁寧な移行支援を行うことで、毎日の生活の中での継続した支援に繋がる。

**こども・保護者・在籍園・療育職員
みんなが笑顔になれる！！**

そのために・・・

さらに、移行支援の精度を高めるために、学び合う

⇒各療育園での実践例の共有、研修会

⇒市内幼稚園・保育園・認定こども園へ実践例を紹介

めざす長浜市の発達支援

